



グラビア印刷用シリンダー

グラビア印刷業界を支える 高品質シリンダーの専門メーカー

森脇鉄工 株式会社

事業内容と沿革

高品質と短納期で メーカーからの信頼を獲得

グラビア印刷に使われるシリンダーの製造および預託・管理業務を手がける。創業当初はグラビア印刷機およびその周辺機器を製造していたが、グラビア印刷の品質を追求する中で、シリンダーの専門メーカーへと移り変わっていった。色の微細な濃淡を表現できるグラビア印刷は、軟包装とよばれる食品や洗剤、ペットボトルなどのパッケージ印刷に多く用いられる。印刷の品質の根幹を支えるもっとも重要な部品がシリンダーである。あらゆる企画の印刷物に対応するため、シリンダーのサイズは千差万別。顧客となる印刷メーカーが所有する機械に合わせて、尺や径をミリ単位で調整し製造する。取引先は全国に広がる。強みの1つである迅速な対応を円滑にするため、平成26年の夏、千葉県野田市に関東の拠点を設けた。独自の設備とネットワークを駆使し、品質と精度の向上を常に心がけている。環境負荷低減に対する企業努力も怠らない。シリンダーのリサイクルを推進しており、取り扱い量は年々増加傾向にある。業界で高いシェアと信頼度を誇る。森脇鉄工社長の「社員一人ひとりの生活を確立していくところから会社は始まる」との考えが、高いレベルでのものづくりを可能にし、会社の発展を支えている。

強み

短納期を可能にする 最短3時間での製品づくり

平成19年11月、本社工場敷地内に800㎡におよぶ資材センターを完成させた。資材センターの稼働により、顧客の注文に素早く対応できるようになった。シリンダー製造に必要な資材をストックしておくことで、原材料発注にかかる時間を省略できる。「パッケージ印刷では、デザインのオリジナル性が何より重要。他社に先駆けて商品を完成させるため、得意先の印刷会社は常に忙しく働いている。我々もそのような素早い動きに足並みをそろえなければならない」と森脇社長はいう。注文の締め切り時間は午後3時。それまでに発注がくれば、当日の午後6時には品物が仕上がるという。製造にかかる時間は最短で3時間という驚異的なスピードである。当日中に発送し、顧客が求める短納期に対応する。これほど迅速な対応ができる会社は、全国的にみても少ないと自負している。「以前から素早い対応は心がけており、朝に受注があれば当日中に製品を作る努力はしていた。だが、材料調達の手間が省けることで即納体制が格段に増し、我が社のさらなる強みになった」と胸を張る。高い品質と精度を誇るシリンダーを迅速に出荷することで顧客からの信頼も高まり、シェアの確保につながっている。



本社工場の外観



資材センターの外観



シリンダー製造ラインの様子

- 企画提案
- 短納期対応
- 多品種少量
- コスト相談
- オンラインワン
- 海外対応

グラビア印刷業界を支える
高品質シリンダーの専門メーカー



代表取締役社長
森脇 巖さん

グラビア印刷用シリンダーの専門メーカーとして、製造と預託・管理業務を手がけています。環境対策にも力を入れており、グラビア印刷業界全体の環境負荷軽減に向け、シリンダーのリサイクルを提案しています。独自の手法を駆使した「Eco（エコ）シリンダー」の製造比率は年々増加傾向にあります。外面研磨・内面コーティングを施したシリンダーを始めとする、高品質で高精度の製品づくりを常に心がけ、お客様の信頼獲得につなげています。社員一人ひとりの生活を大切に考えることで、全社一丸となって良質なもののづくりを実現しています。

主な事業内容

グラビア印刷用シリンダーの製造、預託・管理、リサイクル

主な取引先（納入先）

凸版印刷（株）、（株）フジシール、グンゼ包装システム（株）、東タイ（株）など

【住 所】〒571-0015 大阪府門真市三ツ島6-22-1
【T E L】072-887-3232
【F A X】072-887-3277
【創 業】昭和40年 【設 立】昭和45年6月
【資本金】2,000万円 【従業員】25名

カドマイスターの取り組み

グラビア印刷業界全体の 環境負荷軽減に貢献

時代の変遷とともに、リサイクルによる省資源化を積極的に推し進めている。業界内で二酸化炭素（CO₂）の削減や資源の節約を提案し続け、ここ5年間で顧客からのリサイクル需要が増えた。業界の省資源化に対する意識が高まってきているという。新規シリンダーと、再加工を施したリサイクル品「Ecoシリンダー」の取り扱い比率は、現在ではおよそ50%ずつ。森脇社長は「業界全体ではリサイクル比率はまだまだ高いとはいえない。この先、環境対応のEcoシリンダーの取り扱い量はもっと上がっていくだろう」と予想する。それを可能にするのがシリンダーの預託・管理業務で、「得意先の大切な財産であるシリンダーを信頼し預けてもらえることが当社の大きな強み。要望があれば加工を施し、Ecoシリンダーとして提供できる」という。不要になったシリンダーに新たに息を吹き込む。その品質と精度は新規製品と同等。コストの削減と省資源化の両方を実現している。

今後の展開

将来の海外進出も視野に 堅実な企業努力を重ねる

即納対応やリサイクル業務への取り組み、さらには人材育成や設備投資などを長期的な視点に立って継続的に続けていくことで、会社の成長を促していく。一方で、海外進出の展望も持ち合わせている。顧客となる印刷メーカーの多くは東南アジアに進出している。平成26年9月、社員数人がタイの日系印刷メーカーを視察した。印刷メーカーにとって、シリンダーを作る鉄工メーカーや製版会社などの仕入れ先との関係が重要になる。それらの仕事を中国系の企業が独占しているのが現状である。品質や納期に関してルーズな部分もあり、現地の日系印刷メーカーは日本人の企業パートナーを持ちたいと考えている。「我々のような企業が進出する余地はある」と森脇社長はいう。現在、海外での仕事はゼロだが、日本国内における人口減少や東南アジア地域の所得向上による需要増加も踏まえ、進出の機会をうかがっている。「現地ニーズを捉え基盤をしっかりと固めたうえで、海外進出を検討していきたい」と森脇社長は慎重に見極める構え。

<http://www.moriwaki-i.co.jp>

